

Kansai Economic Insight Monthly

2015/8/24

Vol.28 July/August

要旨

- ✓ 6月の鉱工業生産指数は3カ月ぶりの上昇も、4-6月期は3期ぶりの前期比マイナス。今後生産は緩やかな減少が予想される。
- ✓ 7月の貿易は、輸出が29カ月連続の前年比増加も中国経済の停滞もあり増加幅は縮小。輸入は原油価格の下落もあり、5カ月連続の減少。結果、貿易収支は5カ月連続の黒字となった。
- ✓ 7月の消費者態度指数、景気ウォッチャー現状判断DIはともに前月から悪化。中国経済の先行き懸念から見通しは弱含み。
- ✓ 4月の関西2府4県の現金給与総額は2カ月連続の前年比マイナス。5月の関西コア賃金指数も2カ月連続の減少となっており、賃金回復の動きはまだ見られない。
- ✓ 6月の大型小売店販売額は3カ月連続の前年比プラスも、百貨店販売額は同マイナス。
- ✓ 6月新設住宅着工戸数は前年比+19.2%増加し、2カ月連続のプラス。分譲を中心に大幅増加となった。
- ✓ 6月の有効求人倍率は前月比横ばい。新規求人倍率は小幅上昇。失業率は3カ月連続の悪化も、新規求職の動きを反映した労働力人口の増加が背景にあり労働市場は堅調である。
- ✓ 7月の公共工事請負金額は前年比-18.2%と2カ月ぶりの減少。季節調整値でも大幅マイナス。請負金額は減少に転じた。
- ✓ 6月の建設工事は前年比+5.4%と4カ月連続の増加。足下の建設工事は、住宅着工の増加もあり増加となった。
- ✓ 7月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は、5カ月連続で景気判断の分かれ目である50をкаろうじて維持。工業生産は前年比+6.0%と前月から減速し昨年通年の伸びを下回る状況が続いている。うち、電力や自動車産業で生産はマイナスに転じた。年後半の中国経済は一層の減速が予想される。

- ・ APIR “Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。
- ・ 本レポートの内容は、公益社団法人関西経済連合会『関西経済レポート』と連携しています。
- ・ レポート公開時期は毎月第3週金曜日を予定しています。
- ・ 執筆者は、稲田義久（甲南大学教授、APIR 数量経済分析センター長）、林万平・木下祐輔・James Brady（各APIR 研究員）です。
- ・ 本編内の中国景気モニターは、APIR 中国経済分析のプロジェクトによるものであり、関西経済分析と連動して定期的に発信します。
- ・ 本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

目次

要旨	1
景気の現況	2
関西モニター	8
中国景気モニター	9
主要月次統計	12
Release Calendar	13

【関西経済のトレンド】

	2014年						2015年						
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
生産	↑	↓	↑	↑	↓	↑	↑	↓	↑	↓	↓	↑	
貿易	↑	→	→	↑	→	↑	↑	↓	↑	↑	↑	↑	
センチメント	↑	↓	↓	↓	↓	↑	↑	↑	↑	→	↓	↑	↓
消費	→	↑	↑	↑	↑	↑	→	↑	↓	↑	↑	→	
住宅	↓	↑	↓	↓	↓	↓	↓	↓	→	↓	↑	↑	
雇用	→	→	→	↑	↑	↑	→	→	→	↑	↑	→	
公共工事	→	→	↓	↑	↓	↓	↓	↓	↓	↑	↓	↑	↑
中国	↑	↓	↑	→	↓	↓	↓	→	↓	↓	→	→	→

【鉱工業生産動向】

(1) 関西の生産動向

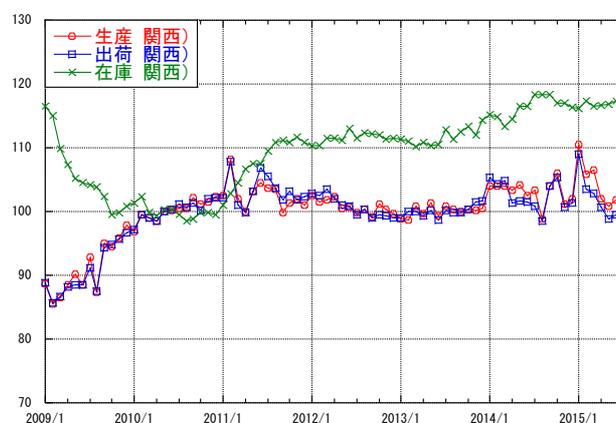
6月の鉱工業指数(速報値:季節調整済)を見ると、生産は101.8で前月比+0.9%と3カ月ぶりの上昇、出荷は99.6で同+0.8%と5カ月ぶりの上昇。在庫は117.4で同+0.4%と3カ月ぶりの上昇となった。

業種別に生産指数をみると、はん用・生産用・業務用機械(同+10.7%, 3カ月ぶり)、化学(除.医薬品)(同+2.7%, 3カ月連続)、プラスチック製品(同+3.9%, 2カ月ぶり)等が増産となった。一方、電子部品・デバイス(同-11.9%, 2カ月連続)、金属製品(同-11.2%, 2カ月連続)、情報通信機械(同-9.9%, 3カ月ぶり)等が下落した。

結果、関西の4-6月期の生産は前期比-5.6%と3期ぶりの低下となった。生産は弱含みの傾向にある。なお、生産指

数と相関の高い実質輸出は7月がマイナスとなっていることから、今後生産は緩やかな減少が予想される。

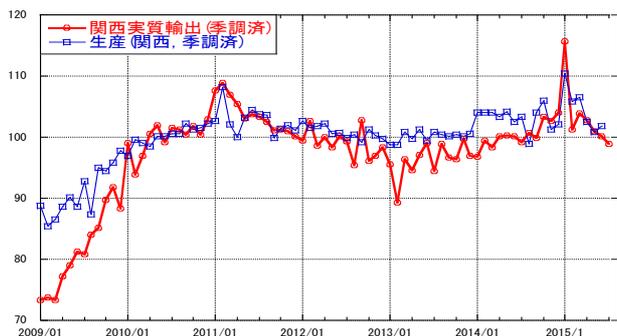
鉱工業指数の推移(関西:2015年6月まで、平成22年=100)



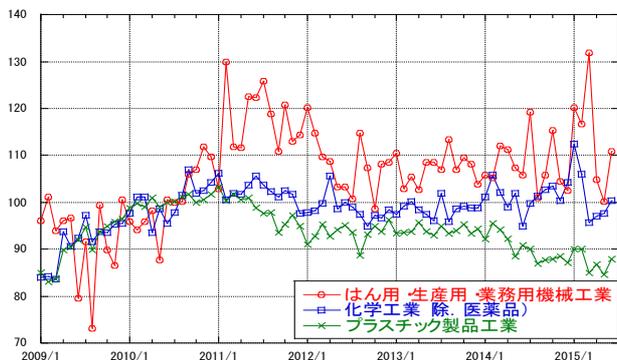
(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

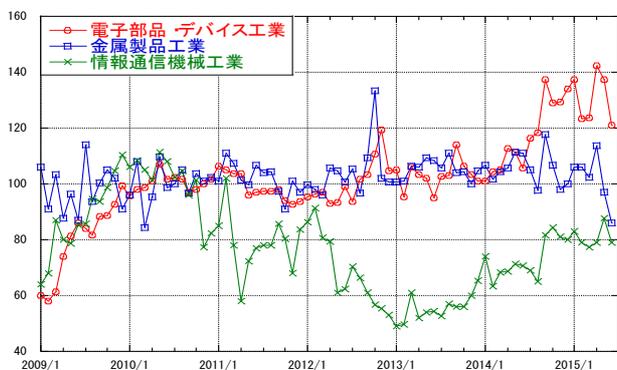
実質輸出と鉱工業生産(関西:2015年7月まで、平成22年=100)



業種別生産指数の推移(関西:2015年6月まで、平成22年=100)



業種別生産指数の推移(続き)



(注) 福井県を含む。

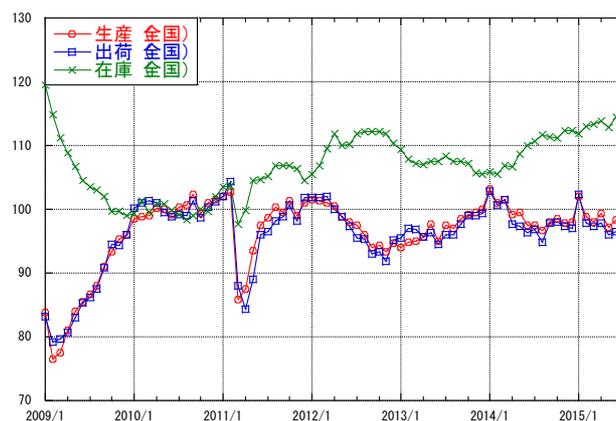
(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

(2) 全国生産動向

全国における6月の鉱工業生産指数(確報値、季節調整済)は98.3となり前月比+1.1%、出荷は96.6で同+0.6%、在庫は114.6で同+1.5%といずれも2カ月ぶりの上昇となった。なお、製造工業生産予測調査で7月は増産(同+0.5%)、8月も増産(同+2.7%)となっている。

業種別にみると、輸送機械(同+2.5%)、化学(同+2.4%)、プラスチック製品(同+5.1%)等を中心に増産となった。一方、電子部品・デバイス(同-1.9%)、石油・石炭製品(同-5.0%)、電気機械(同-1.1%)等は減産となった。

鉱工業指数の推移(全国:2015年6月まで、平成22年=100)



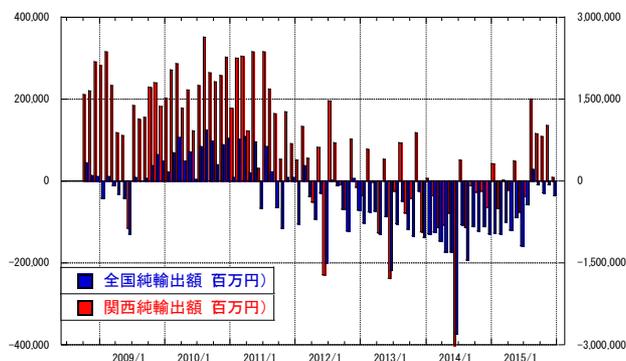
(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

【貿易動向】

(1) 純輸出

貿易概況(速報値)によれば、7月関西の貿易収支は+93億円と5カ月連続の黒字となった。前年同月から724億円改善した。全国の貿易収支(速報値)は-2,681億円と4カ月連続の赤字となったものの、赤字幅は前年同月から-72.3%縮小した。

貿易収支(百万円): 関西(左軸)・全国(右軸)推移(2015年7月まで)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料:近畿圏」

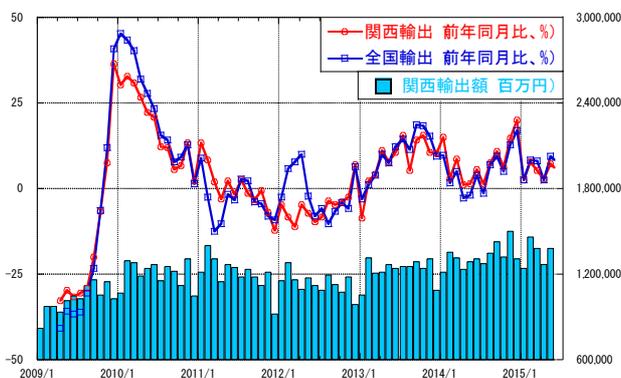
(2) 輸出

関西7月の輸出額(速報値)は1兆3,745億円。前年同月比+4.9%と29カ月連続の増加。財別に見れば、輸出増加に主に貢献したのは、半導体等電子部品、通信機であった。一方、鉱物性燃料、有機化合物は減少となった。

全国7月の輸出額(確報値)は6兆6,638億円となり、前年同月比+7.6%と11カ月連続の増加。財別に見れば、自動車、船舶、半導体等電子部品等の輸出が増加した。

なお、足下、為替レート(税関長公示レートベース)は123.01円と前年同月比20.9%の円安であった。

輸出(右、百万円)・前年同月比(左、%)推移(2015年7月まで)



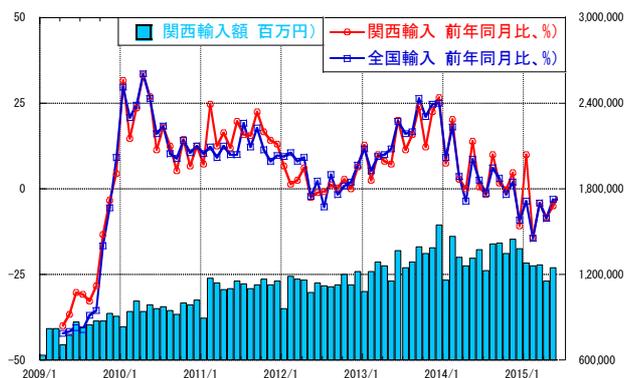
(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(3) 輸入

関西7月の輸入額(速報値)は1兆3,653億円、伸びは前年同月比-0.6%と5カ月連続の減少。財別に見れば、天然ガス及び製造ガス、原油及び粗油等が減少した。ちなみに、原油及び粗油は、価格の下落もあり同-26.6%のマイナスとなった。通信機(単月過去最高額)、有機化合物(過去最高額)等は増加した。

全国7月の輸入額(速報値)は6兆9,318億円、前年同月比-3.2%と7カ月連続の減少。財別に見れば、原油、液化天然ガス、石油製品等の輸入が減少した。

輸入(右、100万円)・前年同月比(左、%)推移(2015年7月まで)



(出所) 財務省「財務省貿易統計」

(4) 関西の地域別貿易

関西7月の貿易収支を地域別に見ると、対アジア貿易収支は+1,430億円となり、18カ月連続の黒字であった。しかし、黒字幅は5カ月ぶりに前年同月比-10.6%縮小した。輸出は11カ月連続で増加(同+4.3%)。財別に見れば、半導体等電子部品、半導体等製造装置等が増加した。輸入は2カ月連続のプラス(同+7.6%)。財別に見ると、通信機、衣類及び同付属品等が増加した。

うち、対中貿易収支は-1,204億円と41カ月連続の赤字。赤字幅は2カ月ぶりに前年同月から大幅拡大した(前年比+73.4%)。輸出は5カ月ぶりの減少(同-1.4%)。一方、輸入は3カ月連続の増加(同+12.1%)となった。足下の円安にも関わらず、中国経済の減速から対中輸出に伸びは見られず、結果、貿易収支は悪化した。

対米貿易収支は+855億円と黒字基調が続いており、黒字幅は11カ月連続で前年から拡大した(同+59.4%)。うち、輸出は14カ月連続の増加(同+19.1%)。財別に見れば、有機化合物、建設用・鉱山用機械等が増加した。輸入は6カ月ぶりの減少(同-1.0%)であり、財別に見れば、医薬品、天然ガス及び製造ガス等が減少した。

対EU貿易収支は-430億円と2カ月連続の赤字となり、赤字幅は前年同月から+59.7%拡大した。うち、輸出は10カ月連続の増加(同+9.3%)。財別に見れば、電池、通信機等

が増加した。輸入は2カ月ぶりの増加(同+18.4%)。財別に見れば、有機化合物、半導体等製造装置等が増加した。

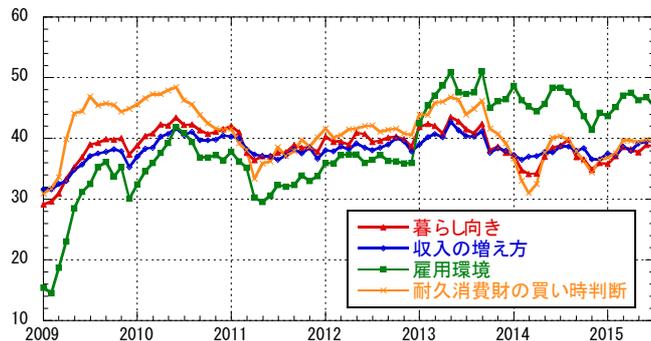
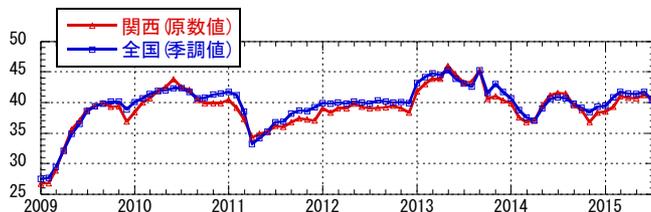
【消費者センチメント】

(1) 消費者態度指数の動向

関西の7月の消費者態度指数(原数値)は前月比-0.4ポイントの40.8と、2カ月ぶりに悪化した。全国(季節調整値)でも同-1.4ポイントの40.3とこちらも2カ月ぶりの悪化となった。結果、内閣府は全国の消費マインドについて「持ち直しのテンポが緩やか」から「足踏みがみられる」へと下方修正した。

関西で同指数の構成項目をみると、7月は4つの意識指標のうち3つが前月から悪化した。「収入の増え方」は同+0.2ポイントと3カ月連続で上昇したものの、「雇用環境」は同-1.5ポイントの低下、「耐久消費財の買い時判断」は同-0.3ポイントの低下、「暮らし向き」は同-0.2ポイントの低下といずれも2カ月ぶりの悪化となった。

消費者態度指数(2015年7月まで)



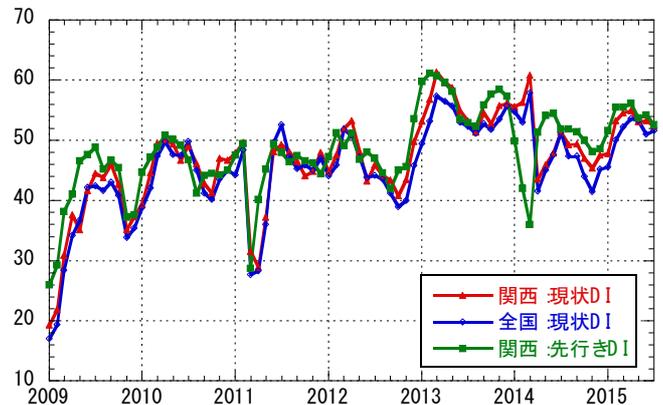
(出所) 内閣府「消費動向調査」

(2) 景気ウォッチャー指数の動向

関西の7月の現状判断DIは前月比-0.9ポイント低下の52.4となり、2カ月ぶりの悪化。台風の接近が客足に影響したことや、猛暑による出控えなどが悪化に寄与したとみられる。一方、全国は同+0.6ポイント上昇し51.6となり3カ月ぶりの好転。

先行き判断DIは、関西では52.6と前月比-1.6ポイントと2カ月ぶりの低下。円安による物価上昇や原材料コスト増加に対する不安が大きいこと、中国経済の先行きへの懸念とインバウンド関連の好調に水を差すとの心配が見通しを悪化させているとみられる。

景気ウォッチャー調査(2015年7月まで)



(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

【所得・個人消費・住宅】

(1) 現金給与総額

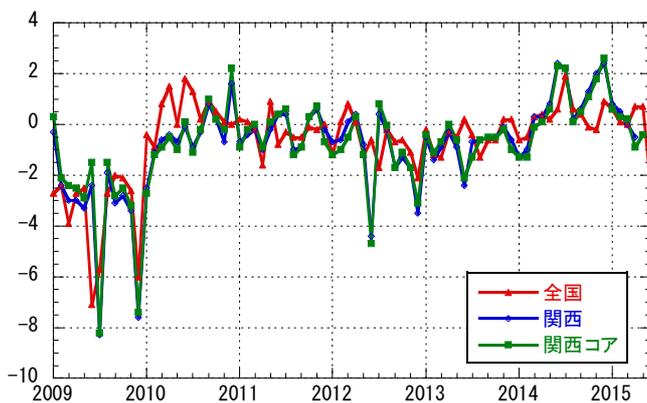
4月の関西2府4県の現金給与総額(APIR推計)は27万564円で前年同月比-0.5%と前月(同-0.0%)に引き続きマイナスとなった。府県別では、和歌山県が同+4.7%(11カ月連続)と、最も伸びが大きかった。次いで奈良県では同+1.7%(4カ月連続)、滋賀県では同+0.8%(2カ月ぶり)、大阪府では同+0.5%(9カ月連続)上昇した。一方、京都府では同-0.1%(2カ月連続)のマイナス。兵庫県では同-4.1%(3カ月連続)のマイナスとなり、前月(同-2.4%)からマイナス幅が拡大した。

京都・大阪・兵庫の加重平均をとった「関西コア」賃金

指数(APIR 推計)は5月に前年同月比-0.4%となり、2カ月連続のマイナス。賃金回復の動きはまだ見られない。

全国(確報値)の現金給与総額は、6月は前年比-2.5%と2014年11月以来7カ月ぶりのマイナス。内訳をみると、所定内給与は同+0.4%と前月(同+0.2%)から若干加速。所定外給与は同-0.2%と前月(同-1.4%)からマイナス幅は縮小。特別給与は同-6.7%と前月(同+25.2%)から大幅に低下した。夏のボーナスの支給時期の後ずれが影響したため、特別給与が大きく減少し、全体を押し下げた。現金給与総額から物価上昇分(帰属家賃を除く総合)を除いた実質賃金は同-3.0%と2カ月ぶりのマイナスとなった。

現金給与総額(前年同月比：%、2015年6月まで)



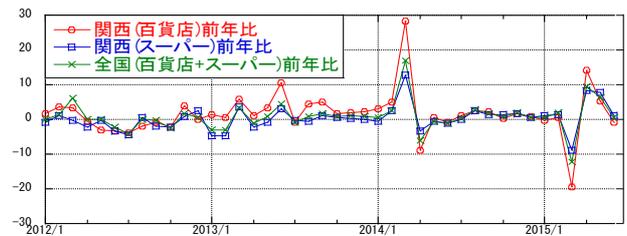
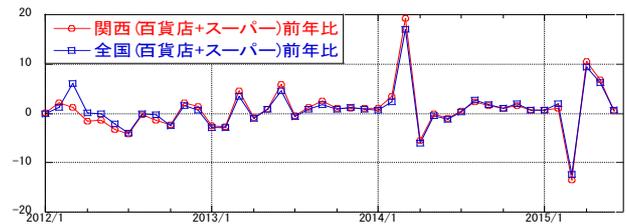
(注) 関西・関西コア(京都、大阪、兵庫)はAPIR推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(平成23年平均)で加重平均。
(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計調査」

(2) 大型小売店販売額

関西6月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は、前年同月比+0.4%と3カ月連続のプラス。百貨店は同-0.8%と3カ月ぶりのマイナス。スーパーは同+1.2%と3カ月連続のプラス。百貨店の販売が振るわない。

全国6月の大型小売店販売額(全店ベース)は同+0.6%と3カ月連続のプラスとなっている。

大型小売店販売額(前年同月比：%、2015年6月まで)



(注) 福井県を含む。(出所) 経済産業省「商業動態統計」

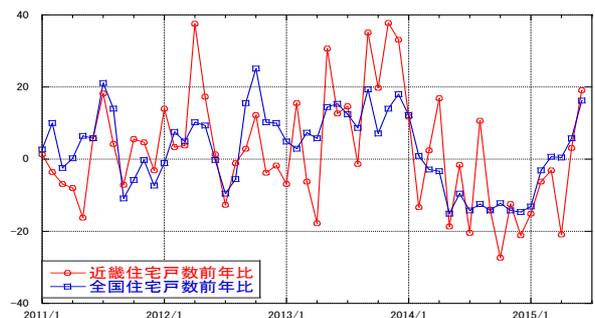
(3) 新設住宅着工の動向

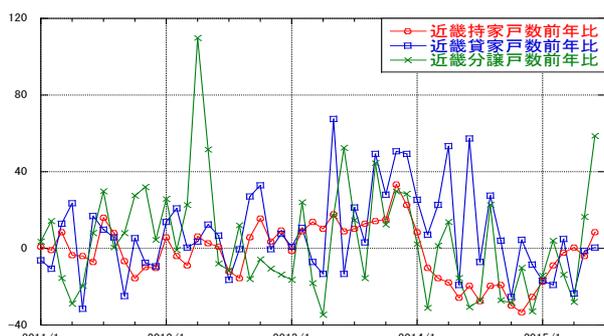
関西6月の新設住宅着工戸数は14,330戸。前年同月比+19.2%と2カ月連続の増加。全国は88,118戸と同+16.3%大幅増加し、4カ月連続のプラス。

関西の住宅着工を利用関係別にみると、持家は3,148戸、同+8.6%と2カ月ぶりのプラス。貸家は5,634戸、同+0.5%と3カ月ぶりの小幅プラス。分譲は5,520戸、同+58.8%の大幅増で2カ月連続のプラスとなった。

7月の関西マンション契約率は71.7%(季節調整値、APIR推計)となった。好不調の目安となる70%を5カ月連続で超えている。全国のマンション契約率は73.6%(季節調整値、APIR推計)となった。足下、関西の住宅着工は分譲を中心に増加が続いている。

新設住宅着工(前年同月比：%、2015年6月まで)





(出所) 国土交通省「住宅着工統計」

【雇用動向】

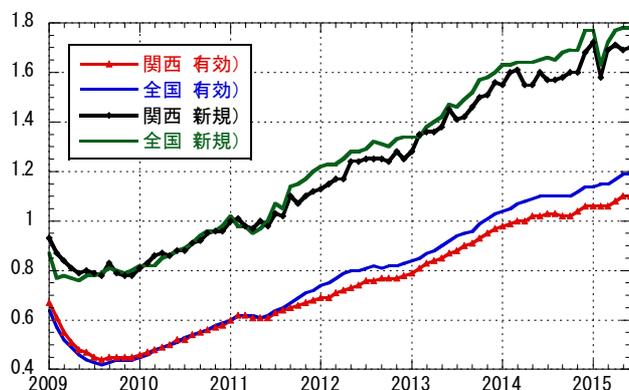
(1) 求人倍率の動向

6月の関西の有効求人倍率は、1.10倍となり前月比横ばい。2カ月連続の1.10倍台で、高水準が続いている。全国も1.19倍と前月比横ばいだが高水準。

府県別では、奈良県で同+0.04ポイント上昇し1.02倍となり、1991年10月(1.00倍)以来の1倍台を回復した。次に京都府では同+0.01ポイント上昇し1.13倍。一方、滋賀県、大阪府、兵庫県、和歌山県では低下した。

6月の関西の新規求人倍率は、1.70倍と前月比+0.01ポイントの小幅上昇。全国は1.78倍と同横ばいであった。産業別新規求人数は、インバウンド需要を受けて卸売業・小売業、生活関連サービス業で引き続き堅調。その他は運輸業・郵便業、医療・福祉、製造業などで増加した。

有効求人倍率の推移 (季節調整値、2015年6月まで)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

関西2府4県有効求人倍率(2015年6月)

	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
6月	1.19	1.10	1.06	1.13	1.19	0.96	1.02	1.04
5月	1.19	1.10	1.07	1.12	1.20	0.97	0.98	1.06

(2) 完全失業率の推移

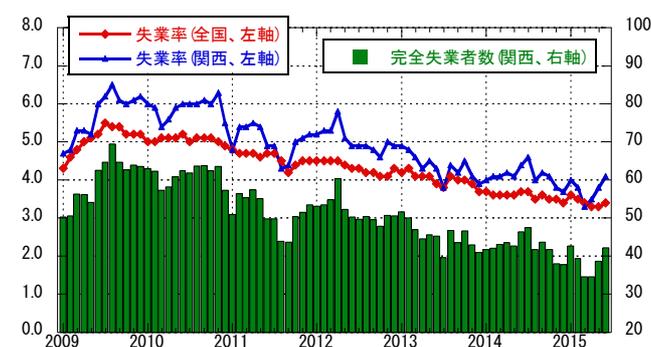
6月の関西の完全失業率(季節調整値:APIR 推計)は4.1%で前月(3.8%)から0.3%ポイント上昇し、3カ月連続の悪化。これは、労働力人口(季節調整値)が増加していることから、職探し動きを反映したものとみられる。

関西の完全失業者数(季節調整値:APIR 推計)は42.2万人で前月(38.6万人)から3.6万人増加した。

全国の完全失業率(季節調整値)は3.4%と前月から0.1%ポイント上昇した。求職理由別にみると、新たに求職を行った人が増加しており、労働市場への参入が進んでいる。雇用情勢は引き続き堅調である。

15~64歳の就業率(原数値、全国ベース)をみると、73.5%となり、前年同月比+0.6%ポイント上昇。昨年の後半から高水準が続いている。また、女性の就業者数(季節調整値)は2,772万人となり、過去最高となった。

完全失業率の推移 (季節調整値: %、万人、2015年6月まで)



(出所) 総務省「労働力調査」

【公共投資】

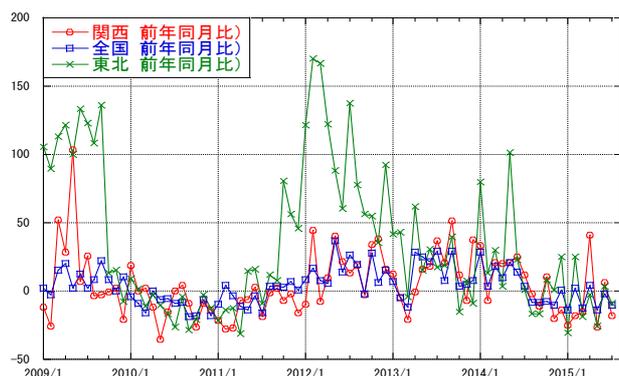
(1) 公共工事請負金額

関西7月の公共工事請負金額は1,346億円で前年同月比-18.2%と2カ月ぶりのマイナスとなった。全国は1兆

4,632 億円で同-10.1%と 3 カ月連続のマイナス。東北は 2,664 億円で同-8.6%と 2 カ月ぶりのマイナスとなった。

季節調整値(APIR 推計)で見ると、関西、全国共に 2 カ月ぶりに前月から減少となった(関西：同-24.5%、全国：同-12.0%)。公共工事請負金額は大きく減少に転じた。

公共工事請負金額(前年同月比：%、2015年7月まで)

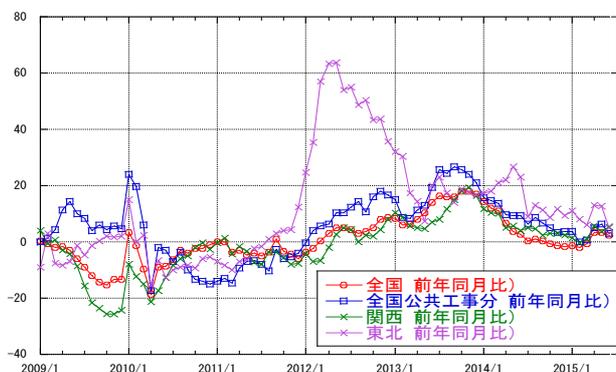


(出所) 東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

(2) 建設工事

関西 6 月の建設工事は 4,870 億円、前年同月比+5.4%と 4 カ月連続の増加となった。東北は 5,147 億円、同+5.2%と 47 カ月連続の増加。全国は 3 兆 7,270 億円となり、同+2.5%と 3 カ月連続の増加。うち、全国の公共工事は 1 兆 4,544 億円で同+3.1%と 41 カ月連続の増加も、伸びは 15 カ月連続で 1 桁にとどまった。足下、関西の建設工事は、住宅着工の増加もあり、増加となった。

建設工事(前年同月比：%、2015年6月まで)



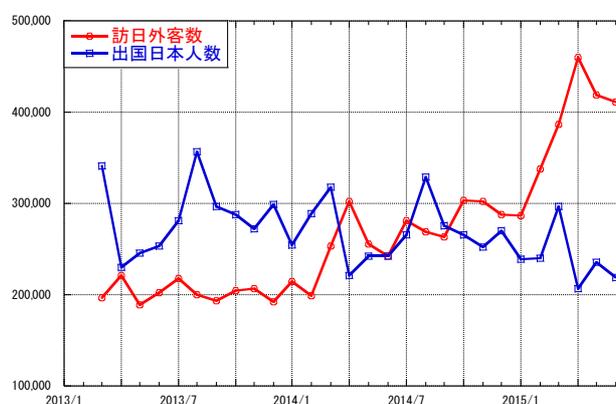
(出所) 国土交通省「建設総合統計」

【関空モニター】

(1) 訪日外客数トレンド

関空への訪日外客数は、4 月の歴史的な水準からは若干減少している。6 月の訪日外客数は 41 万 1,350 人、前年同月比+70.0%と 29 カ月連続の前年比プラスとなった。一方、出国日本人数は 21 万 8,860 人(同-9.8%)と 18 カ月連続の減少となった。

訪日外客数と出国日本人数(2015年6月まで)



(出所) 一般財団法人関西空港調査会「KANSAI 空港レビュー」

(2) 地域別訪日外客数

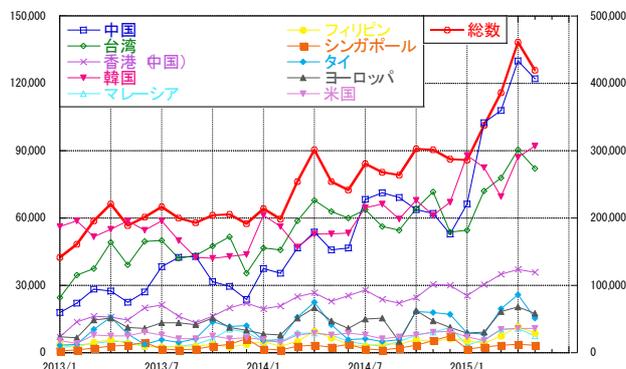
訪日外客数を地域別にみると、5 月は中国(香港を除く)からの入国者数が 122,267 人(前年同月比+165.7%)と最も多かった。次いで、韓国が 92,164 人(同+74.4%)、台湾が 82,037 人(同+30.1%)、中国(香港)が 35,692 人(同+54.3%)となった。韓国からの訪日外客数は歴史的な水準が続いている。

他のアジア各国からの入国者数は、タイから 15,429 人(同+24.8%)。フィリピンからは 8,903 人(同+34.6%)、マレーシアからは 7,732 人(同-0.8%)、シンガポールからは 3,321 人(同+23.7%)となった。

他地域を見ると、ヨーロッパからは 17,655 人(同+23.6%)と 8 カ月連続のプラス、米国からは 10,758 人(同

+35.2%)と9カ月連続のプラスであった。

地域別訪日外客数(2015年5月まで:人、右軸:総数、左軸:各国)



(出所) 法務省「出入国管理統計」

(3) 訪日外客支出

訪日外国人の平均支出額(全国平均)を見れば、2015年4-6月期に日本を訪れた外国人による平均消費額は17万7,428円となり、前年同期比+23.3%増加した。うち、中国(香港を除く)の平均支出額は28万5,306円(同+34.7%)で、訪日外客者の中で最大であった。

関空への入国者数が多い他の国々について見ると、支出額が大きいのは、シンガポールで21万2,341円(同+15.5%)、米国18万1,388円(同+10.5%)、中国(香港)16万603円(同+12.1%)であった。その他、マレーシア16万2,636円(同+2.7%)、台湾14万4,071円(同+22.9%)、タイ13万4,090円(同-9.0%)、フィリピンは10万7,683円(同+9.4%)であった。韓国は7万3,969円(同-2.7%)であったが、これは短期滞在が多いためと推測される。

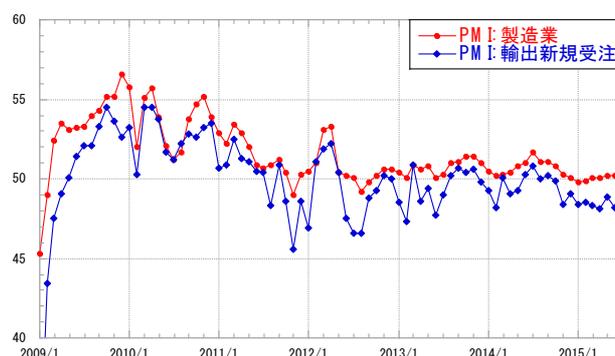
【中国景気モニター】

(1) センチメント

7月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は、前月比-0.2ポイント低下し50.0となった。結果、5カ月連続で景気判断の分かれ目である50をこらうじて維持している状況である。

うち、生産指数は5カ月ぶりの前月比マイナス。-0.5ポイント低下し52.4となった。一方、新規受注指数は同-0.2ポイント低下の49.9となり、2カ月連続のマイナス。また、輸出新規受注指数は47.9となり、同-0.3ポイント下落した。10カ月連続で50を下回った。雇用指数は48.0となり、同-0.1ポイント低下し、2012年6月以来、38カ月連続で50を下回っている。経済を巡るセンチメントは悪化している。

中国製造業購買担当者景況指数(2015年7月まで:%)



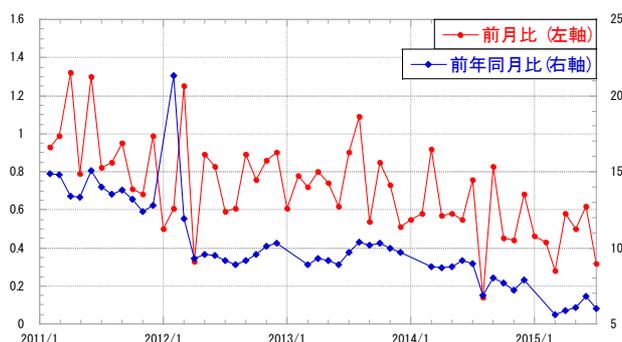
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(2) 工業生産

7月の工業生産は前月比+0.32%上昇し、前月の伸びから-0.3ポイント低下した。伸び率は今年3月(+0.28%)に次ぐ低い数値となった。前年同月比は+6.0%となり、伸びは前月より-0.8ポイント低下し、昨年通年の伸び(+8.2%)を下回る状況が続いている。

産業別に見ると、有色金属圧延加工業(同+13.0%)、医薬製造業(同+10.3%)、ゴム・プラスチック製品製造業(同+10.3%)、パソコン・通信及びその他電子設備製造業(同+9.4%)等が高い伸びを示す一方で、電力・熱力生産・供給業(同-0.9%)、自動車製造業(同-0.5%)はマイナスに転じ、専用設備製造業(同+4.8%)、鉄鋼などの製錬・圧延加工業(同+4.1%)、通用設備製造業(同+4.0%)等は比較的低調な伸びにとどまった。

工業生産指数(2015年7月まで：%)



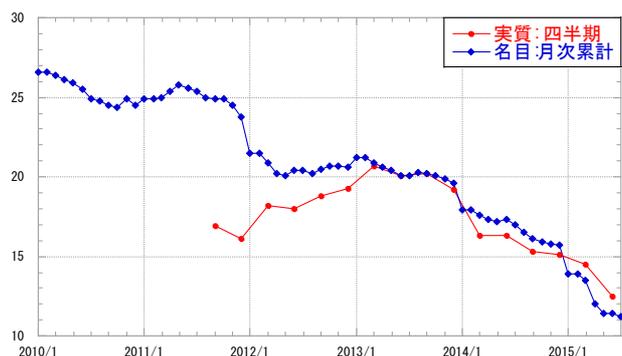
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(3) 固定資産投資

1-7 月期の(累積)固定資産投資(名目)は前年同期比+11.2%、伸びは 3 カ月ぶりの低下となった(1-6 月期:+11.4%)。2013 年後半以降減速トレンドにあり、今年入りの最低水準となった。

産業別にみれば、第 1 次産業は同+28.2%(1-6 月期:+27.8%)、2 カ月ぶりの増加であるが、第 2 次産業は同+9.0%(1-6 月期:+9.3%)、第 3 次産業は同+12.1%(1-6 月期:+12.4%)となり、減速が続いている。

固定資産投資 (2015年7月まで：%) (累積伸び率)

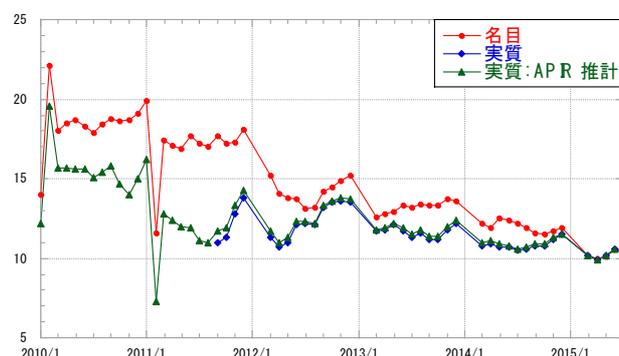


(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(4) 消費

7 月の社会消費品小売総額の名目成長率は前年同月比+10.5%と前月(同+10.6%)よりマイナス0.1%ポイント低下した。昨年通年の伸び(+12.0%)を依然下回っている。

社会消費品小売総額 (2015年7月まで：%)



(注) APIR 値は小売価格指数を用いて計算した値

(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

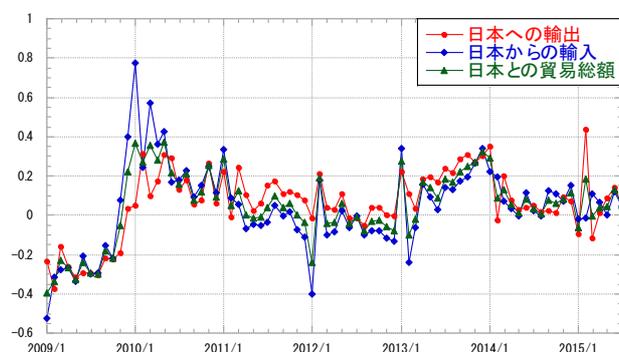
(5) 貿易動向

7 月の中国の輸出額(速報値、ドル・ベース)は前年同月比-8.4%と2カ月ぶりのマイナス。輸入額は同-8.2%(速報値)と内需の低迷を反映し9カ月連続のマイナス。マイナス幅は前月(輸入額:-6.3%)より拡大した。

うち、日本への輸出額は同-13.0%、5 カ月連続のマイナス。日本からの輸入額は同-13.6%、9 カ月連続のマイナス。

円ベースに換算すると、日本への輸出額は同+5.3%となり、4 カ月連続のプラス。日本からの輸入額は同+4.6%と5 カ月連続の増加だが、前月(同+12.1%)から伸びは縮小した。

日本との貿易 (前年同月比：円ベース) (2015年7月まで：%)



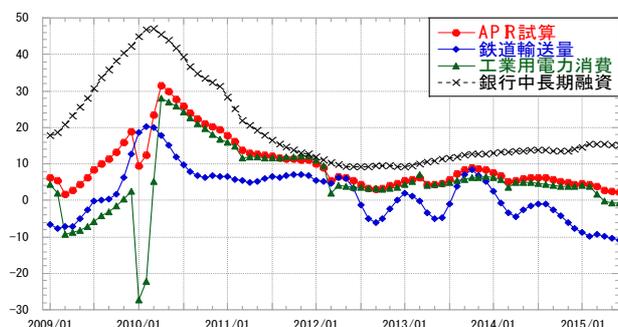
(出所) 中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

(6) リコノミクス指数

景気の動向をよく示す指数として、本研究所ではリコノミクス指数を参考に中国経済のトレンドを表している。

2015年7月のリコノミクス指数(APIR 試算)は前年比+2.1%、6カ月連続の悪化となった。内訳をみると、銀行中長期融資は同+14.8%、前月(同+15.0%)から-0.2%ポイント減少した。工業用電力消費量は同-0.6%、前月(同-0.6%)から横ばい。鉄道輸送量は同-11.2%、前月(同-10.9%)より減速幅が拡大している。リコノミクス指数から見た7月の中国経済は幾分前月から悪化した。

APIR 試算のリコノミクス指数とその内訳(2015年7月まで:%)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(7) 不動産市場

不動産価格(新築住宅価格)を見ると、中国主要70都市のうち、7月は29都市で下落した。31都市で前月に比べ上昇、10都市で横ばいとなった。下落した都市の数は5カ月連続の減少である。

新築住宅価格の主要都市集計 (2015年7月まで:都市数)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

Contact : 林万平・木下祐輔・James Brady

Tel. 06-6485-7695,

E-mail. contact@apir.or.jp

【主要月次統計】

月次統計	14/7M	14/8M	14/9M	14/10M	14/11M	14/12M	15/1M	15/2M	15/3M	15/4M	15/5M	15/6M	15/7M
景況感													
[関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、合計)	51.4	49.3	49.4	47.0	45.4	47.6	47.8	53.3	54.6	54.9	53.1	53.3	52.4
[関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、家計)	50.3	49.9	50.2	45.9	43.2	48.2	47.4	52.3	54.1	55.0	53.4	53.6	51.2
[関西]景気ウォッチャー調査(先行き、合計)	51.9	51.9	51.5	50.0	48.2	48.6	51.6	55.5	55.5	56.1	53.7	54.2	52.6
[全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、合計)	51.3	47.4	47.4	44.0	41.5	45.2	45.6	50.1	52.2	53.6	53.3	51.0	51.6
[全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、家計)	49.4	45.8	46.7	42.3	39.5	44.2	43.9	48.4	50.9	53.2	53.6	50.4	50.8
[全国]景気ウォッチャー調査(先行き、合計)	51.5	50.4	48.7	46.6	44.0	46.7	50.0	53.2	53.4	54.2	54.5	53.5	51.9
消費者心理・小売り													
[関西]消費者態度指数(原数値)	41.6	41.5	39.6	38.8	36.8	38.3	38.5	39.3	41.0	40.8	40.7	41.2	40.8
[関西]「暮らし向き(原数値)	38.8	39.8	36.9	36.6	34.8	36.0	35.8	37.1	38.5	38.2	37.7	38.9	38.7
[関西]「収入の増え方(原数値)	38.7	38.7	38.0	38.4	36.6	36.6	37.5	37.2	38.7	38.0	39.2	39.4	39.6
[関西]「雇用環境(原数値)	48.4	47.7	45.7	43.7	41.4	44.2	43.7	45.2	47.1	47.5	46.3	46.8	45.3
[関西]「耐久消費財の買い時判断(原数値)	40.4	39.8	37.9	36.3	34.4	36.4	36.8	37.6	39.6	39.6	39.4	39.8	39.5
[全国]消費者態度指数(季節調整値)	40.9	40.7	39.8	39.1	38.4	39.3	39.5	40.9	41.7	41.5	41.4	41.7	40.3
[関西]大型小売店販売額(10億円)	335.1	311.0	294.1	308.1	335.1	419.0	335.0	289.7	327.0	310.8	324.8	315.4	UN
[関西]大型小売店販売額(前年同月比、全店)	0.5	2.4	1.6	1.0	1.6	0.7	0.6	1.1	-13.4	10.5	6.9	0.4	UN
[全国]大型小売店販売額(10億円)	1,717.4	1,626.3	1,531.3	1,606.5	1,728.6	2,155.4	1,722.7	1,498.6	1,715.0	1,608.0	1,692.8	1,641.2	UN
[全国]大型小売店販売額(前年同月比、全店)	0.3	2.8	1.7	1.0	1.9	0.7	0.6	2.0	-12.3	9.5	6.3	0.6	UN
住宅・建設													
[関西]新設住宅着工(戸数)	10,038.0	12,764.0	11,707.0	10,816.0	12,192.0	11,625.0	9,605.0	9,002.0	10,832.0	9,823.0	10,416.0	14,330.0	UN
[関西]新設住宅着工(前年同月比)	-20.5	10.6	-14.0	-27.3	-12.5	-21.1	-15.0	-6.2	-3.0	-20.9	3.2	19.2	UN
[全国]新設住宅着工(戸数)	72,880.0	73,771.0	75,882.0	79,171.0	78,364.0	76,416.0	67,713.0	67,552.0	69,887.0	75,617.0	71,720.0	88,118.0	UN
[全国]新設住宅着工(前年同月比)	-14.1	-12.5	-14.3	-12.3	-14.3	-14.7	-13.0	-3.1	0.7	0.4	5.8	16.3	UN
[関西]マンション契約率(季節調整値)	73.6	71.8	78.4	73.4	81.6	75.6	79.3	69.9	70.4	73.6	70.5	71.8	71.7
[関西]マンション契約率(原数値)	77.1	71.7	76.9	74.1	80.9	73.0	70.9	67.1	72.7	74.2	75.2	74.8	75.1
[全国]マンション契約率(季節調整値)	83.5	71.9	71.5	65.2	79.0	70.3	69.5	74.5	75.2	74.5	72.1	75.4	73.6
[全国]マンション契約率(原数値)	83.7	69.6	71.6	63.3	78.4	71.0	74.9	74.5	79.6	75.5	71.1	78.7	83.7
[関西]公共工事前払保証額(10億円)	164.5	116.7	148.5	150.4	88.9	97.2	70.6	64.4	112.4	263.4	127.6	200.4	134.6
[関西]公共工事前払保証額(前年同月比)	12.2	-2.0	-11.3	10.8	-20.0	-13.7	-25.1	-18.3	-14.9	40.9	-26.5	6.4	-18.2
[全国]公共工事前払保証額(10億円)	1,627.3	1,127.6	1,398.4	1,316.1	843.7	894.4	670.8	712.2	1,275.5	1,836.1	1,129.4	1,556.4	1,463.2
[全国]公共工事前払保証額(前年同月比)	3.5	-8.1	-8.2	-7.4	-10.4	1.0	-13.7	2.3	-12.4	4.4	-14.0	-1.8	-10.1
[関西]建設工事(総合、10億円)	475.6	506.1	534.1	556.5	587.8	609.6	600.8	584.1	573.7	467.9	494.5	487.0	UN
[関西]建設工事(総合、前年同月比)	4.9	4.8	2.3	3.0	3.2	2.4	1.4	-0.2	1.0	5.8	3.8	5.4	UN
[全国]建設工事(総合、10億円)	3,738.2	4,030.9	4,333.2	4,522.6	4,714.6	4,834.6	4,611.0	4,510.3	4,520.2	3,632.1	3,549.4	3,727.0	UN
[全国]建設工事(総合、前年同月比)	0.5	1.2	0.3	-0.6	-1.4	-1.7	-1.3	-2.1	-0.7	3.4	3.3	2.5	UN
[関西]建設工事(公共工事、10億円)	1,485.5	1,703.7	1,933.3	2,098.8	2,247.4	2,344.3	2,188.1	2,127.4	2,140.9	1,445.8	1,383.9	14,544.0	UN
[全国]建設工事(公共工事、前年同月比)	6.3	8.7	6.7	5.1	3.5	3.7	3.6	0.2	0.8	4.9	6.4	3.1	UN
生産													
[関西]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	103.4	98.9	104.1	106.0	101.2	102.1	110.5	105.9	106.5	102.1	100.9	101.8	UN
[関西]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	0.9	-4.4	5.3	1.8	-4.5	0.9	8.2	-4.2	0.6	-4.1	-1.2	0.9	UN
[関西]「出荷指数(原数値、前年同月比)	-0.6	-3.7	6.6	5.2	-4.0	0.7	1.8	-0.7	0.3	-0.6	-5.1	-0.4	UN
[関西]「在庫指数(原数値、前年同月比)	5.6	6.8	5.6	3.3	4.5	1.5	0.8	2.2	2.8	1.9	0.1	0.7	UN
[関西]「出荷指数(季節調整値、10年=100)	101.6	99.2	106.5	105.3	100.7	101.3	109.0	103.6	102.9	100.7	98.8	99.6	UN
[関西]「出荷指数(季節調整値、前月比)	-1.3	-2.4	7.4	1.3	-4.4	0.6	7.6	-5.0	-0.7	-2.1	-1.9	0.8	UN
[関西]「在庫指数(季節調整値、10年=100)	120.4	119.8	120.0	117.0	117.1	116.4	116.2	117.4	116.5	116.7	116.9	117.4	UN
[関西]「在庫指数(季節調整値、前月比)	2.4	-0.5	0.2	-1.2	0.1	-0.6	-0.2	1.0	-0.8	0.2	0.2	0.4	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	97.5	96.7	98.1	98.5	97.9	98.1	102.1	98.9	98.1	99.3	97.2	98.3	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	-0.1	-0.8	1.4	0.4	-0.6	0.2	4.1	-3.1	-0.8	1.2	-2.1	1.1	UN
[全国]「出荷指数(原数値、前年同月比)	-0.5	-4.1	1.7	-0.6	-4.8	-0.1	-2.1	-2.9	-2.3	0.2	-3.2	1.8	UN
[全国]「在庫指数(原数値、前年同月比)	3.1	4.7	4.1	3.9	6.6	6.2	5.6	7.0	6.2	6.6	3.9	4.0	UN
[全国]「出荷指数(季節調整値、10年=100)	96.9	94.9	97.9	98.0	97.3	97.1	102.4	97.9	97.3	97.9	96.0	96.6	UN
[全国]「出荷指数(季節調整値、前月比)	0.5	-2.1	3.2	0.1	-0.7	-0.2	5.5	-4.4	-0.6	0.6	-1.9	0.6	UN
[全国]「在庫指数(季節調整値、10年=100)	110.7	111.7	111.3	111.2	112.4	112.3	111.8	113.0	113.4	113.8	112.9	114.6	UN
[全国]「在庫指数(季節調整値、前月比)	0.5	0.9	-0.4	-0.1	1.1	-0.1	-0.4	1.1	0.4	0.4	-0.8	1.5	UN
労働													
[関西]現金給与総額(2府4県、前年同月比)	2.2	0.2	0.6	1.3	2.0	2.4	0.8	0.5	0.0	-0.5	UN	UN	UN
[関西]現金給与総額(2府1県、前年同月比)	2.2	0.1	0.5	1.1	1.8	2.6	0.6	0.3	0.2	-0.9	-0.4	UN	UN
[全国]現金給与総額(前年同月比)	1.9	0.6	0.4	-0.1	-0.2	0.9	0.6	0.1	0.0	0.7	0.7	-2.5	UN
[関西]完全失業率(季節調整値)	4.6	4.0	4.2	4.1	3.8	3.7	4.0	3.8	3.3	3.5	3.8	4.1	UN
[関西]完全失業率(原数値)	4.7	4.0	4.1	4.3	3.6	3.4	4.2	4.0	3.6	3.5	3.7	3.9	UN
[全国]完全失業率(季節調整値)	3.7	3.5	3.6	3.5	3.5	3.4	3.6	3.5	3.4	3.3	3.3	3.4	UN
[関西]新規求人倍率(季節調整値)	1.57	1.57	1.58	1.60	1.60	1.68	1.72	1.58	1.69	1.71	1.69	1.70	UN
[全国]新規求人倍率(季節調整値)	1.66	1.65	1.68	1.69	1.69	1.77	1.77	1.63	1.72	1.77	1.78	1.78	UN
[関西]有効求人倍率(季節調整値)	1.03	1.03	1.02	1.02	1.04	1.06	1.06	1.06	1.06	1.08	1.10	1.10	UN
[全国]有効求人倍率(季節調整値)	1.10	1.10	1.10	1.10	1.12	1.14	1.14	1.15	1.15	1.17	1.19	1.19	UN
国際貿易													
[関西]純輸出(10億円)	-63.1	43.5	-67.2	2.3	-22.2	50.2	-76.0	-37.6	201.1	114.9	108.8	135.6	9.3
[関西]輸出(10億円)	1,310.8	1,273.6	1,348.5	1,425.2	1,322.6	1,500.7	1,304.8	1,242.4	1,459.2	1,382.7	1,264.3	1,383.4	1,374.5
[関西]輸出(前年同月比)	5.5	1.3	7.5	10.9	6.5	14.7	20.0	2.5	7.9	5.3	2.7	7.3	4.9
[関西]輸入(10億円)	1,373.9	1,230.1	1,415.7	1,422.8	1,344.8	1,450.5	1,380.8	1,280.0	1,258.1	1,267.8	1,155.5	1,247.8	1,365.3
[関西]輸入(前年同月比)	0.6	-1.6	9.9	1.8	-0.3	4.7	-10.9	10.2	-14.1	-4.2	-8.2	-4.9	-0.6

注：鉱工業生産 輸送機械工業は鋼船・鉄道車両除く。

Release Calendar for APIR Monthly

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
3-Aug 中国製造業 PMI (7月)	4-Aug 毎月勤労統計 (6月:速報値)	5-Aug	6-Aug	7-Aug
10-Aug 景気ウォッチャー調査 (7月) 近畿鉱工業生産指数 (6月速報) 近畿貿易統計 (5月確報) 近畿貿易統計 (6月速速) 中国輸出入 (7月:速報値) 消費動向調査(7月)	11-Aug	12-Aug 商業動態調査 (6月:確報値) 全国鉱工業生産指数 (6月:確報値) 中国工業生産(7月) 中国固定資産投資 (7月) 中国消費小売総額 (7月)	13-Aug	14-Aug 公共工事前払保証額 統計(7月)
17-Aug 建設総合統計(6月)	18-Aug マンション契約率 (7月)	19-Aug 全国貿易統計 (7月:速報) 近畿貿易統計 (7月速報)	20-Aug	21-Aug 毎月勤労統計 (6月:確報値)
24-Aug	25-Aug 近畿鉱工業生産指数 (6月確報)	26-Aug	27-Aug 全国貿易統計 (7月:速速)	28-Aug 商業動態調査 (7月:速報値) 求人倍率(7月) 完全失業率(7月)
31-Aug 全国鉱工業生産指数 (7月:速報値) 新設住宅着工(7月)	1-Sep	2-Sep	3-Sep	4-Sep